

9.1 研究成果の概要

研究業績として、平成 14～16 年度に発表された発表論文等をまとめて整理した (10.7 参照)。

発表論文は、通常「審査付き論文」と「審査なし論文」に区別されるが、論文の種類がより詳細にわかるようにするため、

- (A) 審査つき論文
- (B) 解説・総説
- (C) 著書
- (D) 紀要・報告書
- (E) 講義・講演会テキスト
- (F) 新聞・雑誌記事
- (G) 審査なし論文

に分類した。

「(A)審査つき論文」については、更に、当該分野のほとんどの研究者が査読付き論文と認める(A1)完全査読論文、講演会を伴いその講演会で発表される論文が前もって発表論文として査読される「(A2)一般査読論文」、アブストラクトが審査される「(A3)アブストラクト審査論文」、に分類した。また「(G)審査なし論文」についても、「(G1)講演会概要集」、「(G2)学術誌」に細分類した。なお、論文の分類に当たっては、自己申告に従ったため、(A1)と(A2)の区別、(A1)と(A3)の区別は部門、センター、個人毎に若干異なっている。この点は、厳密性を確保するため、今後の調査では基準を明確にする必要がある。

(A) の発表論文の総数は 1054 編 (前回: 729 編) であり、詳細は以下のとおりである。

- (A1) 完全査読論文: 534 編 (前回 370 編)
- (A2) 一般査読論文: 279 編 (前回 255 編)
- (A3) アブストラクト査読論文: 241 編 (前回 104 編)

である。前回の調査は 2 年間の論文数であるのに対して、今回は 3 年間の調査であるため総数が増えるのは当然であるが、ほぼ前回と同等といえる。

一人一年当たりの発表論文数で比較すると以下のとおりである。

- (A) 3.1 編/人 (前回 3.1 編/人)
- (A1) 1.6 編/人 (前回 1.6 編/人)
- (A2) 0.8 編/人 (前回 1.0 編/人)
- (A3) 0.7 編/人 (前回 0.5 編/人)

平成 16 年度に行われた外部評価では、国際的な学術誌への投稿の重要性が指摘された。今回の成果に含まれる完全査読論文の中で、英文論文は 298 編 (56%)である。

(B) の解説・総説は計 528 編 (前回 74 編)、(C) の著書は計 116 編 (前回 97 編) であった。

(E)(F)に関わる業績に関しては、成果を申告しなかった者も多いと推測され、完全には捕捉しきれていないと思われる。各研究者が自己診断・評価の項目として、社会への貢献や防災学の啓蒙活動の重要性を認識することも、今後の防災研究所の発展のためには必要であろう。

9.2 特許等

平成 14～16 年度に, 出願あるいは認められた特許等は以下の 9 件であり, 前回の調査 (2 件/2 年) よりも増えている.

- 1) 安田誠宏 (特許出願中; 2003-350043) : 地形と構造物の電子データを用いた数値解析条件の設定方法
- 2) 吹田啓一郎 (特許; 3574824) : 既存建物の柱梁接合部の補強工法
- 3) 鈴木祥之 (特願; 64614) : 建材用組成物, それを用いた建築材料の製造方法
- 4) 高山知司 (特許; 2839441) : ケーソン用目地
- 5) 高山知司 (特許; 2948472) : 海象計
- 6) 中川 一 (特願 2004-260273) : 砂礫測定装置及び測定方法

- 7) 亀田弘行・角本繁・畑山満則 (特開 2003-157287) : 空間情報データ構造に時間要素を付加した時空間情報システムとそのプログラム (特開 2003-157287)
- 8) 矢守克也 (商標登録; 2004-83439) : クロスロード (防災ゲーム)
- 9) 矢守克也 (商標登録; 2004-83439) : Crossroad (防災ゲーム) .